

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の話し合いで理念を「寄り添う介護」「優しい介護」を掲げていて、常に念頭において介護に臨むように心がけている。	理念の作成に当たり地域密着型サービスの意義を踏まえ、「利用者がここにいる大丈夫なんだ」と安心し、本人らしい暮らしが続けられるような介護をしたいと「寄り添う介護・優しい介護」に決まった。会議では具体的な接し方などを話し合い、理念の共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流というのではないが、伝統行事を招いたり地域の文化祭に参加したりしている。地域の方には行事の通知をいただいている。	地域の一軒として自治会に加入している。回覧板が廻っており地域の行事や情報を得てホームの暮らしに役立てている。地域の文化祭には利用者の作品を出品し、見に出かけている。園児たちは散歩のついでにホームの敷地から電車を見たり、利用者も外に出て挨拶や会話を楽しんでいる。小学生の子供神輿が玄関でお練りを見せ、休憩も兼ねて利用者と交流もしている。ソバやうどん打ちのボランティアが定期的に訪問している。近くの住民から果物や野菜を頂き、お返しをがてら自宅を訪ねるなど交流の機会を積極的に設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けての認知症の理解の勉強会等を行っていない。体験学習の場としての受け入れ態勢は整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	近況報告をし、グループホームの取り組み等を理解していただいている。委員の方からの意見を参考にサービスの向上に努めている。	家族代表2名、民生委員、市職員をメンバーに奇数月の20日前後に開催している。会議ではホームの事業や行事報告、予定、利用者の状況、外部評価結果と目標達成計画の達成状況などを報告している。参加者は地域の情報を伝えたり、利用者の状態や経過を確認したり、時には助言もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査の日程調整や、利用者様の様子など推進会議の時に見て頂くようにしています。申込者の状況など連絡して協力関係を築けるようにしています。	市高齢者福祉課の担当者にはホームの実情を理解してもらっており、何かにつけて親身に対応していただいている。介護認定の更新や区分申請の代行を家族から委任されており担当窓口まで出かけている。認定調査員が来訪した時には本人の状態や暮らしぶりを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行ったり、マニュアルを読んで理解をするようにしている。本人が出かけたい時は出られるよう行動制限しないようにしている。	ケア会議の中で対応の仕方が拘束に当たるのではないかなど気になることがあれば話し合い確認している。拘束をしないケアを実践し利用者が居心地良く暮らせる環境づくりに努めている。職員は身体拘束の内容や弊害、行動を制限する行為を認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などに参加している。日頃何気なくしている言動が、虐待になっていないかお互いに気をつけている。		

ケアネットグループホームすざか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加するようにしている。入居者の家族に説明をしたり相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の確認や、ターミナルについても説明をしている。ご家族の意向や希望も聞いている。制度改正・報酬改正の際はご家族がホームに来られた時直接説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し契約時に説明を行っている。ご家族の面会の際、情報交換をして意見・要望を聞いています。家族会や運営推進会議において意見をいただき運営に活かせるように努力しています。	家族会を1月に開催し、利用者と家族、家族間同士、家族と職員の交流を行い親睦を深めている。来訪時や電話連絡の折には必ず「何かありませんか」などと声をかけて家族からの意見・要望を伺うようにしている。意見箱は玄関においてあるが活用されたことはなく、家族は何かあれば直接口頭で伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター会議(月3回)スタッフ会議を開き運営に関しての方針や具体的な方法についての説明をして職員の意見を聞いている。皆が取組出来るようにしている。	スタッフ会議は毎月行い、運営会社の長野管内の事業所の全体会議の報告、毎月の目標達成状況確認、次月目標の確認、行事や研修報告、利用者一人ひとりの状態や変化などの報告や確認など3時間かけて行われている。参加できなかった職員は会議録を読んだり、重要事項については管理者が口頭で伝えている。会議ではいろいろと意見を出したり、話し合いが和気藹々とした雰囲気で行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に目標を掲げ半年毎に評価をしてもらうようにしている。職員の資格取得に意欲が持てるよう研修会等積極的参加できるようにシフトや職員配置をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会の参加や月1回のスタッフ会議に研修報告を行って勉強会をしている。日々の仕事でも活かせるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域(長野圏域)グループホームねっとの勉強会に参加するようにしている。情報交換もできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの時点で施設見学をしてもらうようにしている。本人の不安に思っている事や困っている事など聴きながら、ホームに慣れていられるよう話をしながら信頼関係を持つようにはしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事を相談し、希望や要望を聴けるように機会を多く持って信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みや相談を受けたら、定期的に連絡をとり状態を聴いたり、他のサービスの情報を提供したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様一人一人の経験や知識が活かせるように、日頃からいろいろ教えて頂き一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には出来るだけ面会に来て頂き、本人と話が出来るようにしています。またご家族の大切さを理解してもらっています。職員も本人の様子をお話したりご家族と相談し話し合える関係が出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家に帰ったり、墓参りや親戚との交流はご家族にお願いしている。面会に来られた方にも時々来てもらえるように話している。毎日の会話の中でも馴染みの行事や場所の話をしている。	家族以外の面会も時々あり、近所の友人や知人、習字のお弟子さんなどが見えている。友人と電話で話す利用者もいる。隣接のデイサービスを利用していた時の仲間が訪ねてきたり利用者が会い出かけることもある。受診や美容院の帰りに馴染みの店に立寄ってから戻る利用者もいる。馴染みの人に逢ったり、お墓参りや自宅に帰ったりした後は利用者の多くはいい表情や落ち着きを見せているという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時は全員が集まって会話が出来るようにしている。利用者同士のトラブルにならないように職員が配慮する事は大事だと考えている。利用者同士の会話を大切にしたり、職員が話しの中に入ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者には、ご家族からその後の様子を聞いたりしている。他の施設に移られた方にも何かあれば相談しますと伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から把握できるように努めているが、困難な方は家族から情報を得るようにしている。一人一人の思いを大切にシカンファレンスで検討している。	自分の思いや意思を言葉や仕草などで全員の利用者が伝えることが出来る。「お風呂あるけど入りますか、お風呂の日ですが今、入りますか」、「天気がいいから散歩はどうですか、散歩に行きませんか」、「買い物に行きますが一緒にどうですか、行きませんか」など、一人ひとりに応じた声かけを工夫し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談で情報を得ているが不足しているため、日々の会話の中より情報を聴けるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方、生活のリズムを変えないようにケアに心掛け、本人の姿や言葉を通して一日の流れを記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ずつ担当を決め、担当者が中心になりカンファレンスを行う。ケアプランは担当者と計画作成者が相談しながら作成している。	計画作成担当者は本人や家族の意向を聞き、受持ち担当者や相談し暫定計画を作成後会議で発表し、更に意見や提案を取り入れ完成させている。受持ち担当者は毎月、短期目標に対し遂行状況を確認し評価・記録している。3ヶ月毎もしくは状態の変化や計画の継続が難しい場合にその都度見直し、現状に即したものに作り変えている。介護計画を本人や家族に説明し確認もいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケア記録、バイタル、服薬、排泄、入浴等の記録をしている。情報の共有、申し送り、連絡ノート等の確認を行って勤務するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族のケースや緊急時は施設対応をしている。柔軟な対応が出来るような体制や工夫をしている。		

ケアネットグループホームすざか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ご家族代表、市役所の方を交えて消防署の方に見てもらい避難訓練を行った。お花見や笠鉾会館の見学で外出し季節感をあじわった。隣接しているショートステイにボランティアが来た時見に行き交流が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認し、引き続き受診をしてもらうようご家族に話す。家族が無理な時は施設で対応するようにしている。又病状の変化については主治医に連絡をして対応を行っている。	本人・家族の希望に沿ったかかりつけ医となっている。定期受診(変化がなく、薬を出してもらうなど)は家族に依頼しているが状態に変化がある場合には職員が直接かかりつけ医に電話で報告し、通常の受診若しくは総合病院への受診の指示を得ている。総合病院への受診はかかりつけ医から直接検査等の指示が病院地域連携室へFAXされるのでスムーズな受診が出来る。家族には受診結果などをホームから連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康管理、服薬管理を行い、変化があれば隣接のショートステイの看護師に相談したり助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合はかかりつけ医に確認し、ご家族と相談し病院を決めてもらう。医療連携室に入院前の情報交換を行い、病院へ様子を見に行き本人と話をしたり退院に向けて連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を聞きながら対応している、ターミナルに関する考えを入居時に確認するようにしている。終末期の看取りは行っていないが、事業所で出来る事や今後看取りが行えるように職員の勉強会を行っている。	開設7年目を迎え看取りの事例はないが、2名の方が終末期をホームで過ごし医療機関に移られ最期を迎えている。9月に亡くなられた方は入院中に驚くほどの回復振りを見せ「俺がいなくちゃダメだ。帰る」と強く希望し一時退院してホームに戻ったが3日目に再び入院し亡くなられた。家族は「このホームがどんなに良かったのか、此処に戻りたかったんですね。本当に良くしていただいて」と感謝の言葉を伝えている。ホームで看取り支援を行うには沢山の課題はあるが、終末期を支えながら医師の指示に沿いながら本人・家族が安心できる支援をしたいと取り組んでいる。	重度化した場合や終末期支援のあり方についてホームが現在対応できる支援方法を基にして、関係者と話し合いながら最善の支援を尽くされることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習会に職員が参加して、心臓マッサージ、人工呼吸、AEDの実技を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回施設全体の避難訓練や災害時の連絡網を行っている。ホームだけで避難訓練を行った。スプリンクラーの設置も済んでいる。	消防署の指導を受けながら利用者も参加し屋間想定避難・誘導訓練を行っている。運営推進会議のメンバーも2名参加している。夜間想定訓練は今後予定している。消火器の扱い方に関しては運営会社の防災担当者から全職員が指導を受けている。防災設備として非常通報装置、自動火災通報装置、スプリンクラー、ガス漏れ探知機、漏電火災報知機などが整っており、非常用の備蓄も準備されている。地域と災害に関わる協力・応援協定が締結されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に注意し、個人個人の人格を尊重し、目上の方に対する言葉遣いに気をつけている。職員同士気が付いた時お互いに注意出来るようにしている。	利用者は苗字に「さん」をつけて呼ばれている。苗字が同じ利用者に関しては本人の了解を得た上で名前で呼んでいる。守るべき情報や人権意識の周知徹底に関してはマニュアルに沿って学んでいる。排泄や入浴支援にはドアやカーテンを閉めるなどプライドやプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の毎日の様子を見て、相手のペースに合わせた行動や言葉掛けで、本人の言葉を聴けるようにしている。自己決定を促すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先しがちにならないよう、一人一人の生活リズムを大切に支援するようにしている。利用者を急がせないようにし、希望が聞けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなど本人に選んで決めてもらっている。外出時も本人が選んだ物を着てもらるようにしている。身だしなみも声掛けして本人にやってもらう。理髪サービスはホームに来てもらいカットを本人に決めてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事について好きな物を献立に取り入れて、食材の下ごしらえや盛り付けを職員と一緒にしている。外出の時は外食を楽しめるようにしている。片づけも運べる方には下膳してもらう。	利用者は自分の出来る範囲で野菜の皮むき、刻み、盛り付け、食器片付けや食器拭きなどを職員と一緒にしている。献立は職員が作成し、管理栄養士が必要に応じ助言をしている。煮魚や彩りよいサラダなどを頂きながら利用者は「おいしい」、「おいしいね」と何度も繰り返しながら「此処の食事は何時もいいものが出る」と自慢げに話してくれた。外出した時に家族と外食をしてくる利用者が多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立によりカロリー計算して、管理栄養士に見てもらい栄養の偏りがないようにしている。ポットはいつでも用意して飲みたい時に水分を摂ってもらえるようにしている。お茶の時間には声をかけ水分摂取を促したり、食事量や水分量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをして、介助で義歯を洗浄したり、歯磨きをしてもらっている。		

ケアネットグループホームすずか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自居室にトイレがあり、プライバシーが守られて一人一人排泄が出来る。その人毎に時間でトイレ誘導をして、パット交換やリハビリパンツの交換をしている。リハビリパンツやパットは個々にあった物を選んでいる。	一人ひとりの排泄パターンやリズムを職員は把握している。介護日誌にも排泄時間の記入欄があり、それを参考に誘導や声がけをしたり、本人が自室に行く姿を見て付き添ったりしている。ほぼ自立している利用者もいる。夜間のみ安眠と安心のためにオムツを使う方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による心身の変化を理解して、排便状況が把握できるようにしている。薬による調整が必要な方は医師に相談しながら指示をもらっている。排便の状況はチェックにより職員がわかるようにしている。食事、水分、体操等配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人の希望を考慮して入るようにしているが、入浴日や時間はほぼ決まっている。身体面や精神面で入浴困難な場合は、本人の意思に沿った支援をしている。一人一人のADLに沿った支援をしている。	浴槽は三方向から介助ができる個浴槽で、ラジウム人工温泉となっている。曜日に関係なく隔日に入浴が可能であり週3回以上入浴できている。バラの花びら湯、菖蒲湯、柚子湯など季節の香りを楽しむ日もある。入浴を嫌いな利用者はいないが拒む利用者はおり、「いい所へ行こう」と誘い入浴してもらうが、浴槽に浸かれれば「気持ちいい」と満足気な表情を見せている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活の中で、日中の活動を促し個人個人の生活習慣や状況に応じて休息している。適度な疲労感で夜は安心して眠れるようにしている。眠れない時は寄り添い話をしたり、テレビを一緒に見たりして時間を過ごすようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬説明書を管理し、薬の内容を職員全員がわかるようにしている。必ず服薬の確認をし症状の変化なども記録に残すようにしている。薬の変更、症状の変化に合わせて支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で役割や楽しみが持てるように配慮している。お手伝いなどしてもらった時はその場その場で感謝の言葉を伝えるようにしている。本人の意思に沿ってやってもらい無理しないように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとり体調を把握して散歩に出たり、テラスに出て歌を唄ったりお茶を飲んだりしている。買い物と一緒に行く事もある。個人的に行きたい所があれば家族に伝え外出の協力が得られるように相談している。	テラスでお茶を飲んだり広い敷地内を散歩したり、道路の反対側にあるデイサービスへ出かけたりと運動を兼ねながら外気に触れる機会を設けている。行事外出ではバラ園や菊花展などへ出かけ帰りに外食を楽しむこともある。遠出は車酔いで参加できない利用者もいるので市内での外出が多くなっている。	

ケアネットグループホームすざか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして一人づつ施設で管理している。受診に行き自分でお金を支払う人もいる。外出した時はお金を使うような機会を持つように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の意向を聴きながら援助出来るようにしている。家族や知り合いからの電話は歓迎し、直接本人と話が出来るようにしている。年賀状を自分の家族宛に書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く開放的になっている。窓も大きく日差しが良く入る。庭や畑が見え季節を感じる事ができる。リクライニングやソファでゆっくり話が出来ようになっている。キッチンも開放的なので、調理の匂いや音も感じる事ができる。	食堂兼居間、オープンキッチン、和室がワンフロアになっており、大きなガラス戸からはテラスや庭の立ち木などを見ることが出来、開放感がある。廊下の壁には大きめなボードがあり利用者の作品が飾られている。和室には生花が生けられており障子を引くことで個室にもなる。食堂のテーブルや椅子はレストランを思わせる雰囲気がある。利用者は料理の匂いや食器の音を感じながら窓の外を通するロマンスカーやスノーモンキー車両、普通の電車などを見ることが出来る。利用者はおしゃべりしたり、テレビを見たりと思いいに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやリクライニングでくつろいだり会話を楽しんでいる。共用空間にマッサージチェアを設置して、いつでも使えるようにしている。テラスにはベンチを置いてあり、お茶を飲んだり話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には家具、ベッドが設置してあるが、本人の愛用している引出しや、家族の写真を持って来ている人もいる。一人一人使い慣れた物や好みの物を持って来て飾っている。	額入りの家族写真が幾つも整理タンスの上に置かれている居室、書籍や自分の作品のある居室、ポールスタンドに吊るしきれない程沢山の洋服を掛けてある居室など、利用者が馴染みの物に囲まれ安心して過ごせるような居室づくりがされている。ベッドや椅子、テーブル、大小の整理ダンスなどはホームで用意したどの居室にもあるものであるが、レイアウトによって雰囲気が全く違い各入居者の個性を感じさせてくれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており手すりが付いている。居室にはトイレやコールが付いている。部屋の入口には名前を貼っており、花など季節に合った物を飾っている。廊下の見えにくい所は鏡を置き見えるようにしている。		